

CNSニューズレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

発行元:NPO 法人千葉自然学校

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話:043-227-7103 FAX:043-202-7237

HP:<http://www.chiba-ns.net> メール:info@chiba-ns.net

「ジンチョウゲが告げる春の訪れ」

千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでいます。



千葉事務所

3月のある日、いつものように通勤路を歩いているとふわっと甘い芳香が漂ってきました。匂いの元を辿ると…ジンチョウゲがきれいに咲いていました。この香りを嗅ぐと「春が来た!」と実感する瞬間です。

みなさんは季節の変化を何で感じますか?例えば春ですと気温の変化、桜の開花、花粉症…など様々かと思いますが、個人的には自然の変化で感じる人が多いです。

ここで少し昔話を…。私は学生時代、自然環境や野外調査を学ぶ学校に通っていました。校舎は当時渋谷区にあり、都会の賑やかな駅前を抜けて通学していました。

とある授業で先生から「家を出てから学校や職場に行く途中で、君たちの目には最低でも 30 種類程度生き物の姿が映っている」という話を聞きました。もちろん距離や交通手段によって一概には言えませんが、渋谷区

の大通りや裏通りでも小さな自然は多くあります。さらによく見ると同じと思っていた生き物でも葉の形や花の色、鳴き声が違う事に気づきました。そこから動植物の名前を覚えたいという一心で勉強したのを今でも覚えています。

話を今に戻します。弊社の事務所は千葉駅から徒歩5分の所にあり、県内でも都会と言われるエリアです。このような場所でもケヤキの街路樹、その根元にはホトケノザやハコベなどの草花、ムクドリやヒヨドリといった野鳥など都市部ならではの自然が溢れています。

これからの季節はより生き物の活動が活発になります。年度末年度初め、何かと慌ただしく過ごす日々ですが少し周りや足元を見てみて、ぜひ身近な自然・季節の変化を楽しんでみてください。



事務所前のケヤキの並木道。今はまだ裸ですが、グリーンシーズンになると葉が茂り、さわやかな景色が広がります。



文：山崎 大地 (だいすけ)

総務広報部 課長

事業現場レポート

大房
岬

1/12 岬で凧あげ



2026年初大房イベントは「My 凧作り」を実施しました。凧の形に切ったビニールにそれぞれ空に上げたい絵を描きます。

かわいらしいお花、今年の干支「馬」、一富士二鷹三茄子、まん丸ピンクのカービィ、とても写実的な蛸、頑張って描いた新幹線、あえてのイカ…個性的な凧ばかり、まさに世界に一つだけのMy 凧たち。

絵を描いたら竹ひごの骨組みと安定して飛ばすための足を付け、タコ糸を結びます。そして完成した凧は海近くの広場まで行って大空に飛ばします！最初はなかなかうまく上がりませんが、コツをつかむとどんどん高く飛び、上手な子はすぐに空高くまで上がりました♪

夢中になって凧を上げる子供たちはみんな笑顔で、いい思い出になったかな？屋外に出ずとも遊べる現代だからこそ、外遊びの楽しさも感じてほしいと思います。

文：伏谷 海斗（ふうせん）



お母さんと一緒に可愛い絵を描いていました！

君津
亀山

1/25 ファミリー野遊び教室 ～ブッシュクラフト『火』～



ドキドキ、ワクワク。大きくな～れ！
良い感じに燃えています♪
材料から自分たちで手を加えます。

ファミリー野遊び教室 1月の回はブッシュクラフト体験を行いました。ブッシュクラフトとは「自然の中で生きる知恵を身につけ暮らしに活かす事」を指します。

今回は「火」をテーマに火にまつわる知識を学びながら実際に自分たちで火を起こします。参加者の皆さんは、試行錯誤しながら火を付け、大切に「育てる」プロセスに夢中です！最後には、見事な「炎」へと成長しました。

これだけでも楽しいのですが、自分たちで育てた「火」で焚火スイーツを味わいます。その美味しさに、皆さん自然とにんまり顔♪最後は大切な「火」の後始末です。安全を守るためのお話にも、皆さん真剣に耳を傾けてくださいました。ぐっと「火」と仲良くなれた1日となりました。

文：高津 法子（のりたま）

食堂

地域食材を活かしたメニュー作り

株式会社体験と健康では南房総市大房岬自然の家、千葉県立君津亀山青少年自然の家の食堂を運営しています。君津亀山青少年自然の家食堂（通称：君亀食堂）では季節に合わせて3パターンのメニューを用意しています。栄養面はもちろんのこと、地元食材をなるべく使用した美味しい食事を楽しんでもらっています。一例としまして地域で獲れたイノシシやシカ肉を使用した「ジビエパスタ」。トマトソースをベースに使用し、子供から大人まで美味しいと評判の一品です。

また、君亀食堂では自らお皿に料理を配膳してもらっています。どうすればきちんとお皿によそえるか、ようそう器具を次の人が使いやすくするためにはどうするかなど考え工夫しながら自分の食事を盛り付けます。食事の中でも「自主性」や「協調性」を養う場としてご活用いただければ幸いです。

文：市来 昭（千葉県立君津亀山青少年自然の家食堂 料理長）



ジビエパスタ。ぜひご賞味ください♪

自然学校×ネットワーク会員校

モノ売りだけじゃない！

枇杷倶楽部の地域づくりとは

全国道の駅グランプリ最優秀賞に輝いたこともあり、年間約50万人が訪れる「道の駅とみうら枇杷倶楽部」。駅長の鈴木洋一さんにお話を伺いました。

○南房総市には全部で8つの道の駅がありますが、枇杷倶楽部の特徴は何ですか？

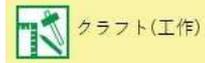
一番は「びわ」ですね。房州びわの旬は4月下旬～6月中旬で、この時期は年間最も多くの観光客が訪れます。南房総市の外房地区が閑散期にあたる時期でもあるため、市全体の観光業にも大きく貢献しています。

びわを使った加工品にも力を入れています。農家さんからB・C級品のびわを買わせていただき、ソフトクリームやジャムに加工しています。これまで一部のお菓子は原料を他県の製造所に委託していましたが、2025年に市内に総合加工場ができ、完全な自社製品を増やすための商品開発を進めています。枇杷倶楽部の取り組みが、びわの価値を高めることにもつながっています。

また、「ランドオペレーター」の機能もあります。枇杷倶楽部が心臓部となり、南房総市だけでなく安房地域全体の産業や文化を地域資源として束ね、グルメや体験を



年中行事



クラフト(工作)



農体験

道の駅とみうら枇杷倶楽部

駅長 鈴木洋一 さん



鈴木さんおすすめ極み枇杷ゼリー！
びわがまるごと1個入っていて贅沢！！

組み合わせたツアーの企画・手配を行っています。「一つのまちだけでは限界がある。地域全体で観光客を呼び込もう」という意識は、30年ほど前の富浦町の時代からあり、地域振興としては先進的だったように思います。

○今後の展望についてお聞かせください。

観光客だけでなく、地元の方にも日常的に利用してもらえる場所にしたいですね。南房総を代表するお土産の開発や農産物売り場の拡大、リニューアルするカフェでは地元企業とのコラボメニューも予定しています。自社だけでなく地域全体の活性化を目指し、これからも挑戦を続けていきます。

取材：花嶋桃子（ぽによ）

自然学校×コーディネート事業

企業の藻場再生活動サポート

2023年から手洗い石鹸や消毒薬はじめとする衛生分野で永年貢献してきた企業を母体とするNPO法人ZERI ジャパン、岩井富浦漁業協同組合そして私たちが連携をして、富浦湾の藻場再生活動に取り組んでいます。全国的課題である「磯焼け」。海水温上昇やそれに伴う生態系の変化で磯場・砂場の海藻（海草）が減り続けています。カジメ・アラメなどの海藻を餌とするサザエやアワビなどの海産物が減少するのはもちろんのこと、海産物以外の多様な生物の生息環境も失われ続けています。

私たちが具体的に取り組んでいることは、①海藻を食べる魚を捕食するアオリイカを増やすための産卵床設置とモニタリング ②ワカメの実験的養殖 ③カジメ・アラメ種苗床の設置とモニタリング ④磯の湧水モニタリングと砂浜の漂着物管理 などです。

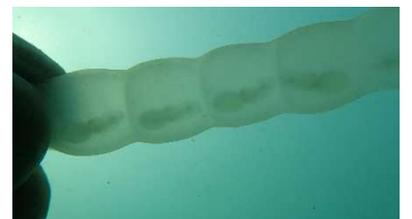


文：神保清司（ジン）

大房岬自然の家 所長

例えば①のアオリイカ産卵床は大房岬で伐採されたマテバシイを活用します。5月、水深4メートルの場所に重りを付けて沈めるとアオリイカたちは一斉に卵を産み付けにやってきます。1か月ほどでふ化した稚イカは厳しい生存競争を勝ち抜く過程で成長し、海藻を食べる魚を捕食します。そうすることで少しでも海藻が成長しやすい環境を整える手伝いを人間が行うというわけです。しかしながら海の中はわからないことだらけ、エラー＆ランを繰り返しながら自然から学びつつ活動を続けます。

一つの房から7匹ほど生まれるアオリイカの稚イカ。大人になるのはほんの数%です。さらに産卵床にはイカだけでなくたくさんの生き物たちが集まります。



不易流行

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。



文：久保田 康雄
千葉自然学校 理事長

皆さんは「里山」を知っていますか。鳥の声を聞きながら小川をのぞき、田んぼのあぜ道を歩く。そんな、暮らしのすぐそばにある身近な自然が里山です。山林や田んぼ、小川、草原、畑などがつながり、人と自然が一緒になって息づいてきた場所でもあります。

昔の人たちは、薪を集めたり、山の恵みを採ったり、落ち葉を堆肥にしたりしながら、里山と深く関わって生活してきました。人の手が入ることで、里山の自然は守られてきたのです。昔話「桃太郎」に登場する、おじいさんが芝刈りに行った山も、まさに里山でした。

ところが時代とともに生活様式が変わり、薪の代わりに石油、堆肥の代わりに化学肥料が使われるようになると、里山は次第に利用されなくなりました。人の手が入らなくなったことで荒廃が進んだのです。里山の自然を後世に残すために大切なのは、「使わずに守る」ことではなく、人が適度に関わり続けることが大切です。その方法の一つとして、自然体験活動が注目されています。

里山で行われる自然体験活動には、さまざまな楽しみがあります。一つ目は自然観察です。小川や田んぼ

にはさまざまな生き物が暮らし、季節ごとに景色や音、においも変化します。じっと目を凝らして観察することで、里山の豊かさを五感で感じることが出来ます。二つ目は、「里山の手入れ」自体を体験する活動です。田植えや稲刈り、畑作業、草刈り、間伐、竹林整備などは、汗をかきながら里山と向き合う時間です。作業を通して、里山が人の手によって支えられてきたことを実感できます。三つ目は、探検や冒険的な遊びです。川の源流をたどったり、木に登ったり、迷路をつくったりする体験は、子どもたちの好奇心や挑戦する気持ちを大きく育てます。このように、里山の活動には遊びと学びがぎっしりとつまっています。

県内でも里山を拠点に活動している団体は多数あります。ぜひインターネットなどで検索してみてください。

※里山を訪れる際には無断で立ち入らず、管理している地域や団体と連絡を取り、ルールを守って楽しみましょう。



ご寄付のお願い～古民家ろくすけの維持管理に向けて～

築200年をむかえた古民家「ろくすけ」。今年の春には皆さまからの寄付を活用して母屋屋根一部の茅替えと、損傷が激しかった長屋門の解体を行いました。今年も子ども達のホームステイや、ご家族でのご利用等、ろくすけににぎやかな声が溢れることでしょう。ぜひ新しいろくすけを楽しんでもらえたら幸いです。引き続き皆さまからのご支援をお待ちしています。(一口 3,000 円)

▼振込先(郵便局/払込取扱票を使用)
振替口座 00170-5-259431
加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先(銀行)
千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275
特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所(下記)へお知らせください。

梅に水仙。春のろくすけは花であふれています。もうすぐ桜も咲くかな？



NPO 法人千葉自然学校

【指定管理施設】

- 千葉県立君津亀山青少年自然の家
- 南房総市大房岬自然の家
- 千葉県立大房岬自然公園

【管理施設】

- 古民家ろくすけ



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。